

政治学概論Ⅰ

(9) 世論とメディア

世論と政治

「世論」＝選挙以外で表れる政治・政策への意見・態度
選挙の結果＝「民意」 ※世論調査の政治的影響力
間接型（代議制）民主主義では「世論」の動向が重要

「世論」は政治の基盤 ⇔ 「世論」は見いだしにくい
明確な政治的意見 ⇔ 「サイレント・マジョリティー」

政治的無関心の増大 ⇔ 政治的対立と世論の分断
マスメディアという回路を通じて表れる「世論」

マスメディアの政治的役割

◆政治情報の主要な伝達の歴史◆

演説（口コミ）→本・新聞（出版物・紙媒体）→ラジオ・TV
（電波・映像）→インターネット、ソーシャルメディア（SNS）

マスメディアの世論形成機能（世論をとらえ、形づける）

マスメディアの政治的議題（アジェンダ）設定機能

伝統的メディアの影響力低下→政治的無関心と分断

デマゴギーのリスクが増えた→民主主義の不安定さ

マスメディアの政治的影響力

◆リップマン「世論」（1922）「疑似環境」を作るメディア
ステレオタイプ（紋切型、パターン化、単純化）

◆マスメディアが政治的支持、投票行動にどれだけ影響するか
弾丸効果説＝直接的、影響力大 ※「無党派層」にその傾向
限定効果説＝限定的、影響力小 ※「無関心層」もテーマによる

マスメディアは「第四の権力」か？ 分散・重層化する影響力

メディアの変化と政治

伝統メディアの影響力低下と新興メディアの台頭
→政治家の支持獲得行動に影響

TVの出現（政治家の外見と好感度が重視される）
ソーシャルメディアの浸透（独自の発信と支持調達）

議題設定、調査報道の機能はソーシャルメディアでは？
「プロパガンダ（政治的宣伝）」がより容易になる？